

# 日本 ハンザキ研究所ニュース No.8

発行 2006.9.30

〒679-3341兵庫県朝来市生野町黒川 292

TEL/FAX (079)679-2939

日本ハンザキ研究所 栃本 武良

## オオサンショウウオの繁殖パーティー見学

例年は9月の上旬にオオサンショウウオの産卵が見られたので、4基の人工巣穴とハンザキ橋直下のアンコ淵の自然の巣穴での確認をしたいと観察をしていた。ハンザキ橋から数m下流の人工巣穴では、8月2日にNo.3巣でオス個体 (No.625) が確認されていた。8月7日にはアンコ淵から数十m下流でオスの首切れ個体を保護したので、アンコ淵の黒主にやられたのだろうと、ここも産卵の期待が膨らんだ。さらに、前号でハンザキ橋に新たな個体の出現をお知らせしたが、9月10日を過ぎても産卵の確認ができなかった。今年はやめなのかなと諦めかかった9月13日の朝、ハンザキ橋下で右側頭部に白い咬み傷を付けた全長70cm程の個体を発見した。その他にも尾部に白い傷痕を付けた個体を2匹確認できた。どうやらオス同士のバトルが行われたようだ。黒主は無傷であった。

橋の上の特等席に座り込んで観察を強化した。アンコ淵の数m下流でゴミが堆積した所から80cm程の個体が姿を現し、巣穴のある大岩沿いにジリジリと穴の入り口の方へ接近を開始した。出入口が見通せる場所で動かなくなったが、そこへスルスルッと出てきた黒主が横腹に咬みついた。水深 150cm程の川底から水面に向かって絡まりつつ2匹の巨体が浮き上がって来て、パッと弾けるように片方が下流へ向かって流れに乗りつつ逃げ去ったのである。スリル満点の瞬間のできごとだったのでシャッターを押すのを忘れてしまった。ライバルを追い払った黒主は、巣穴の出入りを繰り返していたが、その行動には2パターンが見られた。一つは、穴の直上の岩を登って浅瀬で数呼吸してすぐに戻るものであり、他は下流の堆積ゴミの下へライバルを蹴散らしに行くものである。黒主がゴミの下へ入るとしばらくすると、追い払われたオス? 個体が飛び出してくるのである。その動きは流れに乗っているためとは言え、あの鈍重な生き物とは思えないほどのスピード感がある。

アンコ淵に集合したのは、今年4月から定住を確認してきた黒主を中心に傷跡とサイズからオス? 3個体と50cmほどの無傷のメス? の5個体を識別できた。しかし、水量が多くメス? の入巣を確認出来なかったが、穴の入口付近に近づいてから1時間ほど姿が見えなくなったので、この間に産卵受精が行われたのではないかと推測している。これらのパーティーは3日連続き、15日の夜に1個体が橋の下を上流に向かってのを目撃したのが最後に解散したようであった。その後の黒主は専ら昼間に呼吸のために数分間姿を見せては

すぐに穴へ戻ることを繰り返している。

一方の人工巣穴では9月19日の調査で№3巣で産卵を確認することができた。卵の発生状況から15日産卵と推測でき、ほぼアンコ菊のパーティと同じ頃である。卵を護っていたのは8月以来巣を占拠していた№625のオスであった。巣の蓋を開けて長さ1mの棒リーダーによって捕獲することなくマイクロチップのコードを読み取り、個体の確認をすることが出来た。このオスは少なくとも8月2日以来45日間もメスの訪問を待ち続けていたことになる。なかなか辛抱強いことだ。そして15m上流の№2巣にはオオサンショウウオの姿が見えなかったが、2mの長さの通路を“オオサンショウウオ・クリーナー”と命名した自家製の道具でクリーニングしたところ、2個体が飛び出してきたのには驚いた。今年で13シーズン目になる人工巣穴で、初めてのできごとだった。直径20mmのヒューム管の中に全長67mmのオスと78mmのメス？とが正に産卵受精直前の現場であったのだろう。取り上げたオスは精液がダラダラと流れ出していた。腹ボテのメス？としたのは卵の確認が出来ないためだが、この時期にオス同士が仲良く一緒に居るはずは無いのもう一方をメスとして登録しておいてもいいだろう。

サア！夕べにはこのペアが産卵していることだろうと、翌日にはワクワクしながら巣の蓋を取って見たが駄目だった。それもトンネル内にいたのは掘られた？オスだけだったのである。翌21日の水族館チームの調査では、このオスも居なくなっていたそうである。折角のハネムーン・ムードを採捕チェックで壊してしまったのかもしれない。不意なことをして申し訳ありませんでしたが、トンネル内のことで分からなかったのです。これも一例として今後の参考にしたいと考えています。

卵の受精や発生状況を観察するために19日には3卵をハンザキ研の池（谷水を通水中）に収容しました。産卵後間もない卵の移動はあまり良くないのではないかと気づかったのですが、姫路市立水族館へ21日に30卵搬入したものは水温20℃（少々高水温ですが）で35日間という速さで27個体が孵化したそうです。池に収容した3卵は10日目までに死亡し、27日に新たに7卵を収容しましたが、順調に発生が進んでいました。池の水温は本流の温度とほぼ同じであり、14℃程の頃に産卵が行われ、11℃位にまで下がりつつ人工巣穴では11月2日に全卵が孵化していたのを確認しましたが、池では孵化が見られませんでした。後に搬入した10卵を加えて11月3日に5個体が孵化し、11月7日には孵出しそこなって縮んだ卵囊内でもがいている1個体を除いて13個体が孵化しました。結局20卵を搬入して14個体の孵化（最後の1つは強制的に孵出させました）ということで、あまり率は良くありませんでしたが、これらの幼生を数年間育てて、産まれた年の確実に分かっている個体を数多く放流できる体制にしていきたいと考えています。多くのこのような個体にマイクロチップを挿入して放流することで100年後か200年後に平均寿命の解明が可能になることを期待しているのです。さて、誰が後を引き継いでこの謎を解決してくれるのだろうか？との思いを馳せながらハンザキ研究所の整備を進めているところです。

## オオサンショウウオの会 in 大分 (宇佐市院内町)

第三回オオサンショウウオの会が9月30日～10月1日宇佐市教育委員会の主催で開催されました。昨年の岐阜県郡上市が本種の分布の東限であり、大分県は西限になります。ただ、大分県の生息地は大いに変わっていて、周防灘に河口を開く駅館川（やっかんがわ）の支流である岡川の上流部にのみ高い密度で生息が見られるということです。また、10年程前に、院内町の隣・安心院（あじむ）町で発見されたオオサンショウウオの仲間の脊椎骨は、日本産の種とは異なるという論文が出されていました。日本産でなければ中国産なのか、それとも西日本が大陸から分離する前に生息していた共通の祖先の骨なのか、今後の研究説明が待たれるところです。

さて、会議は150名もの参加があり盛大に実施されて（第一回は50名、岐阜は90名）大変な盛り上がり方になりました。文化庁記念物課の江戸技官や宇佐市オオサンショウウオ保護管理委員会の小野勇一委員長（北九州市立自然史・歴史博物館長）のお話もあり、地元を代表して佐藤真一同会副会長の「九州のオオサンショウウオ分布について」、安心院の化石群の発見者である北林栄一先生の講演・オリエンテーリングの後、会員から11題の研究・事例発表が行われました。その中では、姫路市立水族館の清水さんの「アタマビルの寄生」や大分大学の長谷川先生の「寄生虫の研究」などの発表は今までに無い新鮮なものでした。大阪府立大学の田口さんは7夜連続の徹夜観察で、本種の活動パターンについて体力と根気勝負によるデータは大変に参考になるものでした。

私は、現在全精力をつぎ込んでいるハンザキ研究所周辺の整備状況について経過報告をしました。一年前には、私にしても考えてもいなかった順調な整備状況には、研究所なんて言っても「自宅に看板をあげた」か「おんぼろ小屋」程度のイメージを持たれていた皆さんにも大変に羨ましがられました。全く天国のような環境であり、椅子に座ってオオサンショウウオの生態調査ができるなんて、こんな恵まれたフィールドはどこにもないことでしょう。平成20年の第5回オオサンショウウオの会を当地で開催し、皆様にも実感していただきたいと考えています。

2日目は、大分のフィールドの見学ということで、あいにくの小雨の中を安心院の化石発見現場に案内していただきました。浚渫工事中に象の牙が崖からニョッキリと出てきて発掘につながったということでした。川辺の岩は泥岩のようで靴先で簡単に割ることができました。大雨で増水するたびに削られて化石共々流失しているのではないかと思います。次いで、大分オオサンショウウオの生息地である岡川に向かいました。山間部の狭い道路に自動車のキャラバンが進む光景は、昨年の郡上のフィールドを思い出しました。この川では10年前にも見せていただきましたが、30～50㎝という小型個体ばかりが10に毎に出現するという、棲息密度の高さと小型個体ばかり？（105㎝というのが採捕されたそうですが）という、大変に興味深い河川なのです。今後の徹底調査を期待しています。

## ハンザキ研日誌 2006年9月

- 1日：8月19日から引き続き調査(GS-212)～6日、私は仙人になりつつあります。  
：和歌山県田辺市の天神崎ナショナルトラスト事務局長の玉井さんが“南方熊楠酒”をハンザキ研開所祝いとして、熊楠の写真とキノコのスケッチが付いていて、中身(中の瓶です)も外箱も捨てがたいものです。
- 3日：ハンザキ研前の国道でジネズミの死体を拾う。外傷なしで餓死らしい  
：アユの網入れ解禁日とかで、2名がアンコ淵で網を4張り使って大騒ぎ、黒主はどうしているのか心配だったが、静かになった後に姿を見せてくれた。
- 9日：GS-213(213回目の調査)～20日
- 10日：大雨で上流の黒川ダムからの放水でハンザキ研横の丸石河原がほぼ冠水する。  
黒主は無事にやりすごせたのだろうか？
- 12日：ヤレヤレ黒主の姿を確認できました。  
：国交省豊岡河川国道事務所より円山川水系の調査について来所
- 13日：アンコ淵で繁殖パーティが始る、最少5個体が集合、オス同士のバトル観察  
：黒川地区活性化協議会開催(18名出席)  
：展示中の“はんざき”ブロックの改善作業(株式会社ランデス)
- 16日：加古川水系大稗川の調査実施、1個体確認(NPO 神楽の郷のメンバーと)  
：ハンザキ研前の山に入山禁止の縄張りが・・・マツタケ山だったので
- 25日：GS-215(214回は姫路市立水族館チームが21日実施)～29日  
：中5日でアケビが一斉に開果しており、半数は野生動物に先を越されていた。
- 26日：兵庫県但馬県民局県土整備局一行10名来所、人工巣穴の産卵観察
- 27日：県・八鹿土木事務所朝来事業所2名来所、人工巣穴の産卵観察と改善検討
- 30日：オオサンショウウオの会 in 宇佐市へ出席、150名の参加あり  
NPO地域再生研究センターや地元の黒川地域活性化協議会からの参加あり。  
モリアオガエルのオタマジャクシはほぼ全てが変態を終えて、姿を消したので池が淋しくなった上に、生ゴミの処分をしてもらえなくなったので困った。最後の産卵から2か月は掛かったことになるが、変態も餌の量に大いに影響されるということなのだろう。  
・・・今月は3回23日間の出勤?でした。来訪者を含めて総計107人の利用です。  
.....

## ハンザキ・グッズ・コレクション

### 7) 広島県

安佐動物公園：キーホルダー(写真参照)ポストカード

北広島市(旧・豊平町)：チタン製キーホルダー

(株)ピー・ユム・シー：ポストカード(70種の広島弁付き正面の顔のイラスト)

2006  
第3回 オオサンショウウオの会  
IN 宇治

写真1 文化庁記念物課・江戸技官の挨拶



写真2 第一日曜日正午に網入解禁・アノコ淵に・・・

写真3  
広島市安佐動物公園の  
グッズ



写真5 人工巣穴で卵塊を護るオス



写真4 大分土産はユズ胡椒とユズ茶



写真6 南方熊楠酒と外箱（玉井さん有り難うございました）

